

<経営協力事例>それぞれの専門性を発揮した教職員研修(1) 視・知併置校の例から



教材作成研修会の実施や体験的な研修を通して障害への理解を深める

① 両教育部門の実践課題

知的障害を併せ有する児童にとって、集中して課題に取り組むための教材を作るには、どんな工夫をすればよいのでしょうか。



B先生
(視覚障害教育部門)



A先生
(知的障害教育部門)

目と手を協応させ、注視を促すための教材にするためにはどんな工夫をすればよいのかな。

研究推進部に
提案しましょ
う!

共通する課題: **障害特性に応じた教材作成**のヒントが欲しい

③ 教材作成研修・体験的な研修を合同で行う

研修のポイント

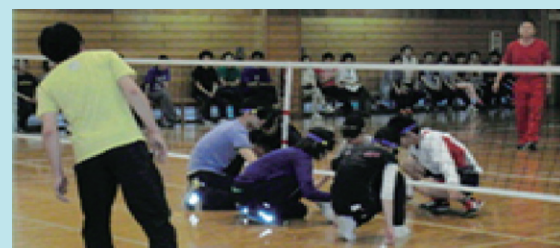
- ◆ 教材アドバイザーを活用したことで、更に充実させることができました。
- ◆ 国語や算数など教科学習の教材だけでなく、身辺自立や日常生活に関する教材がたくさんあり、障害の状態に合わせて、一人一人の児童・生徒の学習に反映できました。
- ◆ 展示のみではなく、実際使用している様子や効果等を見られるような研修にしました。



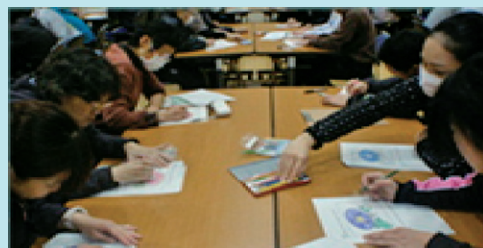
教材紹介展



教材アドバイザー
紹介の教材



フロアバレーボール体験



見えやすい教材づくり研修

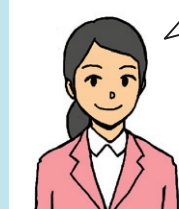
② 研究推進部を中心に校内調整

私たちは触覚的・視覚的に扱いやすく、見やすいサイズや色使い(コントラスト)の工夫をしていますよ。



C先生
(視覚障害教育部門)

因果関係を分かりやすいようにするとともに、焦点を絞った提示の仕方を工夫するといいですね。



D先生
(知的障害教育部門)

「教材づくり」の研修会を合同で行いましょう。

障害の特性を理解することが大切です。

それぞれの障害を理解するには、体験的な研修が必要ですね。

④ 合同研修で得られたこと

- ◆ 複数の障害を併せ有する児童・生徒の指導に当たっては、所属する障害教育部門を超えた指導内容・方法の工夫が重要であることが分かりました。
- ◆ なかでも、体験的な研修は、両障害教育部門の理解を深めることに役立ちました。

視覚障害教育部門の児童にも応用できる内容でした。これまでの自分の知識や経験にはない視点で教材づくりのポイントを学ぶことができました。これからの実践に生かしたいです。



B先生
(視覚障害教育部門)



A先生
(知的障害教育部門)

教材の色によって見え方が大きく変わることを体験的に学ぶことができました。早速、教材の色使いを変えてみたら、生徒が集中して見ることができました。

<経営協力事例>それぞれの専門性を発揮した教職員研修(2) 肢・知併置校の例



知的障害教育部門・肢体不自由教育部門併置校における個に応じた教材の工夫

① 現状



B先生
(肢体不自由教育部門)

肢体不自由教育部門には、自閉症を併せ有する児童・生徒も在籍しています。
障害特性に応じた教材を作成する際には、どのような工夫をすればよいのでしょうか。たくさんの教材を見て、自分でも作りたいと思います。

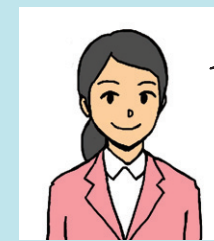
知的障害教育部門に在籍する上肢の機能の向上を図る必要がある児童を指導しています。教材を操作した結果が児童・生徒に分かりやすい教材を探しています。



A先生
(知的障害教育部門)

② アドバイス(自立活動担当)

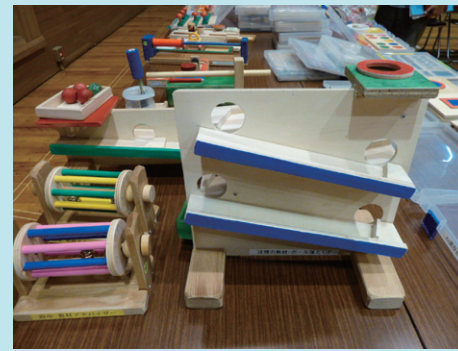
- ◆ 児童・生徒一人一人に適した教材であるかどうか、実際に先生方が体験できるようにしましょう。
- ◆ 教材展示会では、製作の手順を一緒に掲示するようにしましょう。
- ◆ ICT機器やAACを活用した教材を積極的に取り入れるとともに、支援機器の活用についても展示していきましょう。



C先生
自立活動担当教諭

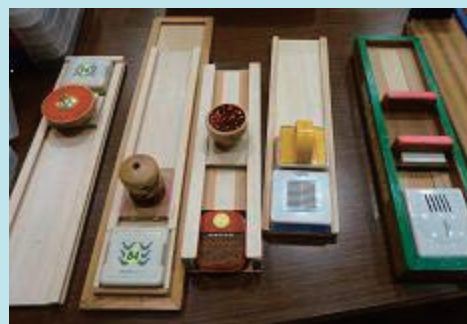
研究・研修部で
「個に応じた教材」をテーマに
夏季休業中に開催

③ 両部門の教材を一同に集めた展示会を開催

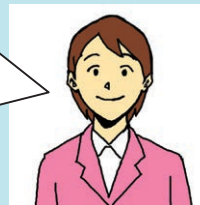


- ◆ 実際に教材を操作して、児童・生徒がどのように学んでいくのかを確かめてみます。
- ◆ 教材を作るときポイントが示されているので、自分で作るとき参考になります。

④ 展示会後の指導による効果



握りやすい丸い取っ手と、少し握りにくい形の取っ手を作ってみました。ブザーが付いていて、操作の目標が分かりやすいので、とても意欲的に取り組むことができました。



色と形を明確にしたパズルがとても分かりやすそうなので自分でも作ってみました。
個別指導の際、児童の集中力が上がり、効果的に学習できました。

